

# おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

- ◇1・4～5 面:シンポジウム「世界一周平和の船旅」
- ◇2・3・6 面:第39回報告「日米安保は今」(後編)
- ◇7 面:第40回AALAカフェ「パレスチナ問題を考える」報告

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F  
2024年11月1日 No. 621



## 報告

### 『日本母親大会 in 和歌山』

大阪AALA

西野敏恵

熱意あふれる

日本母親大会イン和歌山

第69回日本母親大会は去る9月28日・29日と二日間にわたり和歌山県で開かれました。この地で開催されるのは初めてのことで県下、全自治体・全市町村の教育委員会から、後援許可を受けたそうです。

記念講演は第五福竜丸展示館主任学芸員の安田和也さん。第五福竜丸と和歌山県のつながりから始まった話は、この船のたどった航路はヒキニ環礁で浴びた放射能の恐怖を教えるものでした。「第五福竜丸は今も航海中です。地球から核兵器がなくなるまで。」と語られました。

私には第五福竜丸が私たちの願いを乗せて世界中の港に向かって海原を進む姿が浮かびます。私たちは早くこの船を休ませてやらなくてはなりません。

交流の場で和歌山県の母親運動で取り組んだものが寸劇となって発表されました。

一つは「勤務評定反対闘争」二つが

「原発反対運動」「和歌山に原発は一つもありません。」と言う声が誇らしく聞こえました。三つ目「カジノ廃案」、大阪でも頑張らなくてはと思いました。

二日目の分科会では、どの会場も参加者がいっぱい。講師の先生方も豊富でどこに行くか迷うほどでしたが、大阪の担当が二会場あり、そこへ参加。どちらも司会者が上手に進行したと評判になったそうです。日本全国から集まった切実な声を政府はいつまで無視するのかと怒りがつき止まりました。

熱い思いがあふれた大会でした。和歌山在住の大阪AALAの会員の皆さんにお会いできたことは本当にうれいことでした。



【安田和也さん・第五福竜丸についてのお話】

## 第39回AALAカフェの追加報告 沖縄駐留米軍と「核攻撃」の危機

### 1. 沖縄から中国への核攻撃の危機

1958年8月23日、中国本土沿岸部に位置する台湾の金門島に対して、中国軍が猛烈な砲撃を開始。いわゆる「第二次台湾海峡危機」であった。

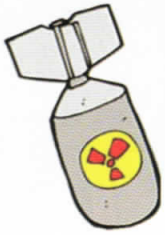
当時、米国との相互防衛条約により、台湾には米軍が駐留していたが、台湾に保有していた通常戦力だけでは中国に勝利するのは困難との判断から、米軍トップのトワイニング総合参謀本部長は「中国沿岸部の航空基地や砲台を小型核兵器で攻撃する必要がある、これが中国に勝利する唯一の方法」と発言。

そこで策定された作戦計画は、それでも「中国が台湾への攻撃を止めない場合、その戦闘能力を無力化するため、戦略核兵器で上海などの大都市を攻撃す

### 2. 沖縄配備の核兵器は、キューバ危機でも

る」とされていた。ただそれを実施した場合「ソ連が参戦し、台湾本島や米軍基地のある沖縄への核兵器による報復攻撃を受ける可能性が高い」との指摘には、「台湾の沿岸諸島の防衛を米国の国家政策とするなら、台湾本島や米軍基地のある沖縄に対して核報復との結果は受け入れるべき」と総合参謀議長は主張した。

▼幸いにも、アイゼンハワー大統領が核兵器の使用を許可しなかったため、米軍の中国への先制核攻撃は無かったが、作戦計画での最初の核攻撃は、沖縄の嘉手納基地とフィリピンのクラーク基地から出撃する爆撃機によって実施されるはずであった。



1962年、ソ連がカリブ海の島国キューバに中距離核ミサイルを配備し、当時「キューバ危機」と呼ばれる発端でもあったが、この時米国は既にソ連本土に届く中距離核ミサイルを西ヨーロッパやトルコに配備しており、この「ミサイル・ギャップ」を埋めるために、ソ連は米本土に近いキューバにミサイルを配備したのだ。

米国空軍のU2偵察機がキューバ上空からソ連のミサイル配備を確認し、米国はその撤去を求めてキューバ周辺海域の海上封鎖をするなど、米ソ両軍は全面核戦争に備えて臨戦態勢に入っていた中、キューバ上空を偵察飛行していた米軍偵察機が、ソ連の地对空ミサイルで撃墜されパイロットが死亡。米軍はソ連軍のミサイル基地への即時報復攻撃を主張したがケネディ大統領は決定を保留。その時、核魚雷搭載のソ連軍の潜水艦が米軍の設定する封鎖線に近づ

いていた。その潜水艦に対して米海軍は爆雷を投下したが、攻撃を受けた場合には核魚雷の使用は許可されていた艦長が発射しようとした寸前、部隊の司令官が止めたということが冷戦終結後に判明している。

米国側がキューバへの不可侵とトルコに配備していた中距離核ミサイル撤去を条件に、ソ連もキューバから中距離核ミサイルを撤去することで両者が合意し、「キューバ危機」による核戦争は寸前で回避されたのだ。

▼当時、沖縄にも地域的に限られた目標を攻撃する「戦域核」として、米軍の地上発射型「メースB」という中距離核ミサイルが那覇・嘉手納・辺野古などに配備されており、一歩間違えれば発射寸前でもあった。しかもその主な標的は中国（4発の内3発が中国、1発はソ連）であったことが当時の兵士の証言で明かされている、ここでも嘉手納基地にあったミサイル運用センターから読谷村の基地には4発の誤った核ミサイル発射命令が届き、寸前に

現場指揮官の判断で回避されていた。

▼当時の米軍部が、ソ連と中国がまだ同盟関係にあるとの誤った認識をしていた。



### 3. 沖縄の核兵器はベトナム戦争でも使用の危険が！

沖縄には「メースB」以外にも、爆撃機から投下する核爆弾やリュウ弾砲で撃つ核砲弾、核地雷など20種類以上の核兵器が持ち込まれており、いざという時にはベトナム戦争で使う態勢が敷かれていて、1968年2月には戦略爆撃機B52が嘉手納に配備され、連日ベトナムの空爆に出撃していた。

### ▼1968年11月、戦略爆撃機B52が嘉手納で墜落

核爆弾を積んだB52は1966年にはスペイン沖で墜落。沖縄に配備される直前の1968年1月にもグリーンランド沖で墜落し、搭載していた4発の核爆弾の起爆用爆薬が爆発して、核

弾頭の放射性物質が広範囲に飛散する事故を起こしていたため、沖縄の人々は核爆弾を搭載するB52が沖縄に墜落する恐怖に怯えていたところであった。

そうして同年11月、B52が嘉手納基地からベトナムに出撃した直後に墜落。搭載していた爆弾が爆発して近隣の民家356棟が被害を受け、16人の住民が負傷する事故が発生した。直ちに嘉手納村議会は抗議決議を全会一致で採択。

「もしB52が原水爆を積んでいたら、沖縄県民の犠牲は想像を絶するものがあったであろう」として、B52と一切の米軍基地の即時撤去を要求した。

4. 1972年5月15日、沖縄本土復帰

沖縄の日本への復帰を求める運動高場の中で、スロークアンの一つに「核つき・基地自由使用返還に反対」が掲げられ、沖縄の人々と連帯した全国的運動が日米両政府を動かし、沖縄は日本への復帰を果たした。

の復帰に合わせて、沖縄に配備されていた核兵器は撤去されたはずだったが、しかし・・・

▼「核密約」の存在

沖縄本土復帰前の1969年、佐藤栄作首相とニクソン大統領が沖縄返還に合意した際、その裏では「有事の際には核兵器の持ち込みを認める」密約が結ばれていた。この「核密約」では、沖縄返還前に核兵器を貯蔵していた那覇・嘉手納・辺野古などにある弾薬庫を「いつでも使用できる状態に維持しておく」と記されているのだ。

5. INF(中距離核戦力全廃条約)締結と失効

1988年、冷戦時代の米国とソ連との間で締結されたINFは、核弾頭、通常弾頭を搭載した中距離弾道ミサイルの保有や実験を禁止した。これは米ソどちらもが自国の領土の大半がミサイル攻撃には結局無防備であり、相手国を第一撃で破壊しても、相手国からの報復攻撃で自国が壊滅させられることは免れ得ない

のを認めたことだ！

ところが2019年8月、INFが失効。これは米国トランプ大統領がロシアによる条約違反のミサイル配備と、同条約に加盟していない中国が核及び通常弾頭の中距離ミサイルを保有しているのは不公平だと主張し、一方的に離脱を宣言したのだ。INF条約が失効したことにより、ロシアがヨーロッパや日本を射程に収めた中距離弾道ミサイルを配備してもおかしくない状態であり、米国もまた既にアジア・太平洋に中距離弾道ミサイルを配備することを発表している。



6. 再び沖縄が米国による核攻撃拠点に

いま日米両政府が造ろうとしている辺野古新基地は、滑走路だけでなく港湾施設と弾薬庫が一体となる大要塞基地であり、中国との「有事」となれば、米軍が核兵器を持ち込み、核作戦の拠点となるのだ。

7. いまや沖縄だけの問題ではない！

米国にとって自らの世界制覇を脅かす存在の中国を封じ込める「防壁」としての日本を自らの世界戦略の中に位置づけ、北海道から沖縄・南西諸島まで日本全土のできるだけ多くの場所に、中距離ミサイルを配備したいと考えている。

中国にとっての攻撃目標が多ければ、それだけ中国の負担がより課せられ、米国にとって都合が良いということだ。同時に米国は「それが米国の国家政策としての核攻撃であるならば、発射基地への中国の核による報復は受け入れなければならぬ」と考えている。

▼もし米国と中国との戦争状態が引き起こされれば、まず報復の対象となり「戦場」となるのは沖縄・日本であり、決して米国本土ではない！日本の大軍拡は米国の「防壁」となるためであり、そして圧倒的に死に逝くのは日本人である！

8. 今こそ日本が目指すべき道は！

日本における大軍拡路線に対して、日本共産党以外の野党政党は真っ向から対決する立場をとれていない。その背景にあるのがあくまで日米軍事同盟に安全保障を頼ろうとする姿勢がある。

しかしこの日米安保体制の縛りを断ち切ることができれば、国家間の紛争の平和的解決を義務つけた東南アジア友好協力条約(TAC)を土台とした東南アジア諸国連合(ASEAN)の動き、「軍事ブロックによる対立ではない対話と共同」の大きな流れに平和憲法を有する日本こそ大いに貢献できる希望があるのだ。

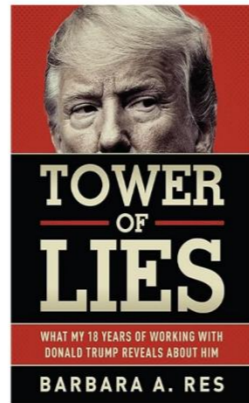
安保破棄・諸要求貫徹  
大阪実行委員会  
事務局長 守山禎三



報告

AALAカフェ&英語で世界を読む会(10月19日実施)
講師・Matt Kasteさん
(ひばりが丘学園英語教師) 場所・えきちか森之宮

DISHONEST 不誠実



また、アメリカのジャーナリズムは、確かに自ら左派、中道、右派を自認している、読者はそれを承知で選...



講師はアメリカ人で、高校で英語の教師をしているMatt Kasteさん。英語での講演という事で、人が集まるか不安でしたが、20人近くの参加者...!

万人も国民が支持するのかわ?という質問に対して、Mattさんは「教育」「宗教」「地域差」「格差」をその理由にあげられました。



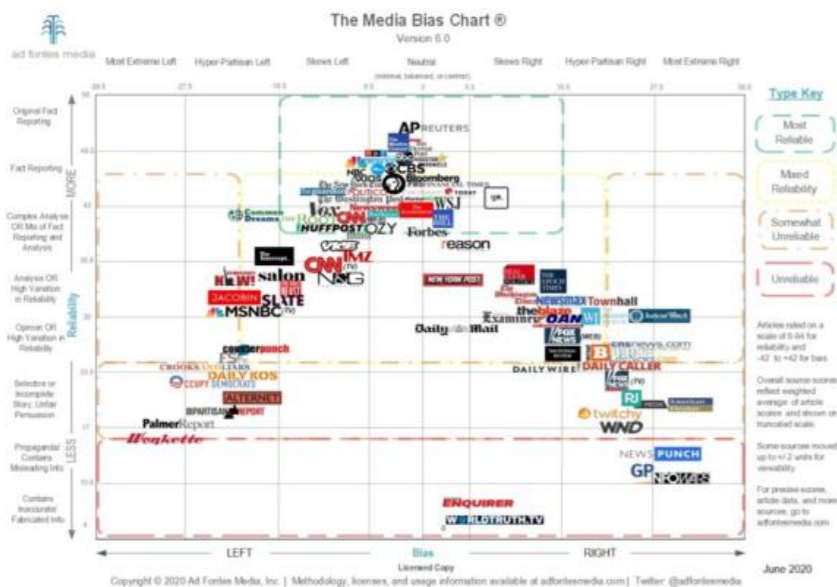
Mattさんは、「リベラル左派として、「サングラス」を支持している。しかし、危険なトランプに対して、今、果敢に戦っているのはカマラ・ハリスだ。カマラはトランプより200万倍素晴らしい大統領になるだろう」として講演を結ばれました。

報告 安井 倫子

参加者の感想がきています

「昨日の企画、運営、見事。ありがとうございました。内容の豊富なそして説得力のある話し方、わたくし幸い60%〜70%ぐらい先生の英語を理解することができました。また通訳者のわかりやすい翻訳、解説で一層理解が深まりました。本当にありがとうございました。」

https://thehill.com/homenews/media/535081-wapost-counts-30573-false-or-misleading-claims-in-four-years-by-trump/



KAMALA HARRIS



https://www.newsweek.com/what-kamala-harris-has-said-about-china-1933632

POLICIES



https://www.bbc.com/news/articles/cx924r4d5yno

『日本母親大会 in 和歌山』  
報告 2 大阪AALA 北瀬照代

分科会は特別企画「作家有吉佐和子が問いかけたもの」に参加しました。有吉佐和子記念館館長の恩田雅和さんが「『華岡青洲の妻』をめぐってーその文学と演劇を味わう」と題して、仁愛大学の大河晴美さんが「有吉佐和子にみる社会観、そして女性観」と題して話されました。

有吉佐和子さんの作品はテレビで放映された「華岡青洲の妻」を見たくらいで全く読んでいないのですが、「地方の方言を使い分けて執筆されていた」ことなどのお話を聞いてとても言葉を大事にされた方だとわかりました。地方の話を書いても狭い地方の方言まで使い分けて書く人は少ないようです。



「華岡青洲の妻」についての朗読劇も上演されました。あの時代に麻酔による手術を成功させたのは医学の世界でも特筆すべき出来事です。麻酔によるいわば人体実験を行ったわけですが、青洲を巡る母親と妻との争いはすさまじいものといえるでしょう。小説には出てこないようですが、この劇で青洲の妹が「青洲の母親と妻との青洲を巡るありようを見ていた」というところが印象に残りました。

また、有吉佐和子さんが実際に住んだのは短期間であったにもかかわらず、生誕地である和歌山に関係する様々な小説を執筆していること、歴史の中で女性が果たしてきた役割に注目している（ハストリアン）ことなど興味深く感じました。「複合汚染」「恍惚の人」など社会問題に切り込んだ作品も執筆されており、一言では言い表されない大作家だと思えます。改めて小説を読んでみたいと思われました。



有吉佐和子氏は1931年（昭和6年）和歌山市に生まれました。1956年（昭和31年）に『地唄』が芥川賞候補と文壇新人賞に選ばれ、文壇にデビューします。『恍惚の人』『複合汚染』といった当時の流行語を生み出した作品や、『紀ノ川』『助左衛門四代記』『有田川』『日高川』『華岡青洲の妻』といった和歌山を舞台にした作品、戯曲や古典、歴史を扱った作品など数多くの作品を生み出し、その多くはベストセラーとなりました。

1984年（昭和59年）急性心不全により永眠。



青洲まつり

世界初、全身麻酔薬での乳癌摘出手術から220周年  
ようおこしなして

※金子順子一人芝居 ※  
 「マリヤの賛歌―石の叫びへのお誘い」  
 大阪AALA副理事長 米澤 清恵

最近パレスチナの

Refaat Alareerの詩がイスラエルのガザ侵攻に抗議する世界のあちこちの集会で朗読されています。『I must die / You must live / to tell my story』が始まる詩である。(もし私の死が避けられないなら、あなたは生きて私の物語を語らねばならない)パレスチナで起こっていること、一人一人に起こっている物語を世界に伝えねばならない、残しておかねばならない。世界中が感動して様々な人が朗読しています。

私達が取り組んでいる「マリヤの賛歌」の城田すず子さんの物語も澤地久枝さんが、彼女のエッセイ集『忘れられたものの暦』で紹介しています。澤地さんもライフワークとして、社会の荒波、戦争の残酷に翻弄され、消されていった

人々の物語を蘇らせる仕事をされた作家だと思えます。

私達はすず子さんの物語を残し、伝え、未来へ進もうとしています。この芝居の主人公、城田すず子さんは東京深川のパン屋の長女として裕福に暮らしていたが、母の急死から家が傾き、15歳の時神楽坂の芸者屋に子守に出された。父の借金の為60歳過ぎの社長に「水揚げ」されたが、重い淋病を移されたあげく、横浜の遊郭に売られ、17歳の時、台湾の「慰安所」に売られた。台湾の馬公の「海軍御用」の遊郭で土日は一人の女が兵隊10〜15人の相手をし、8か月働いても借金は減らなかった。一人の客を騙して送金してもらって、帰国したが、飢えに苦しむ弟妹の為に又、南洋の慰安所へ。

サイパン島、トラック島、パラオと転々。激しい空襲のもと、生き残った兵隊達とシングル生活。兵隊達の為に「慰安所」でおかみを務めた。

そして敗戦。1946年3月米軍の「ST」で引き揚げた。戦後は捨て鉢な気持ちで引き揚げ寮から九州へ。身体を売り、ヒロポン中毒になり、進駐軍相手の、いわゆるパンパン生活。福岡、長崎、熊本、神戸、東京の吉原へ。好きな人ができて心中を図ったが自分だけが生き残った。母の墓参に帰って弟妹の死を知り、真面に生きたいと痛切に思い始めた。

駅で買った「サンデー毎日」で新宿の慈愛寮を知り、駆け込む。日曜は礼拝に行き、洗礼を受けた。深津文雄牧師に「一生暮らせるコロニーが欲しい」と願って婦人保護施設「かにた婦人の村」をつくってもらった。祈っていると戦時中の同僚の慰安婦達のことか思い出され耐えられなくなる。「どうか慰霊碑を」と願い出て、マスコミの取材で寄付金が集まり、1986年「噫 従軍慰安婦」という碑が建立された。梅毒という業病が彼女を寝たきりの病人にしまった。

首相にも手紙を書いたが1993年死去する。日本人「慰安婦」は遊廓等から動員された女性が多く、アジアの各地の路上で連行されたり、騙されて連れ出されて日本軍「慰安婦」となった少女や女性とは異なって、元の商売が性を売る人達だからと、永らく彼女らを支える運動が育たなかった。

2000年の「女性国際戦犯法廷」でも日本人「慰安婦」被害者は名乗り出なかった。日本社会には、性を売る者は、一般社会の子女とは異なる人種だと女性を二分する社会的な風土がある。しかし、映画「赤線地帯」でも売春業の主人が「貧困に喘ぐ子どもを政府の代わりにわしらが救っているのだ」と豪語する。澤地久枝さんのエッセイにも、村中の娘を売ってしまった東北の村があるという歌人の歌を紹介している。貧困が性を売る人達を作っているのがある。

しかし今、生娘であろうが商売女であろうが性暴力の被害者を区別するのは差別だ、買春は性暴力であり、犯罪だという声が起こりつつある。「性的人格権」論である。「人の心と身体両方に深く結びついた『性』の人格性、尊厳性。本人の同意を覆す実体的な権利」だ。

戦時中、日本軍「慰安婦」として、自由を奪われ、尊厳を踏みこじられたことが、問題の本質であると。性暴力被害者の心の叫びを聞いてください。演じる金子順子さんは、関西現代演劇俳優賞、関西現代演劇俳優賞大賞など数々の賞を受けておられる。彼女の迫真の演技によって、貧困という社会の残酷、戦争という過酷な大波にもまれて消えていった女達の心の叫び、心の闇を感じてください。反戦と人権への深い共感に繋がるかもしれません。保守的といわれる和歌山の地で何とか風穴を開けてみたいと取り組んでいます。



◆10月9日開催 常任理事会の報告

① 国際平和署名

10月8日現在の署名数

・個人 1468筆 ・団体 24筆

② 日本AALA学習交流集会

10月27(日) 13時30〜28(月) 12時00

大阪AALAからの参加者10名の予定

③ ベトナム平和交流ツアー

鈴木勝比古さんが来阪されたので、10月8日に直接会ってツアーの打ち合わせをし、アドバイスをいただきました。

④ 大阪AALA新春のつどい

・日時 2025年1月19日(日)

13時から ・会場 未定

・内容 ラオス報告、济州島報告など  
※アトラクションとしてミニバンドの出演を予定しています。

⑤ 財政状況の報告 物販・カンパのとりくみ

■11月は 理事会 を開催します

第3回理事会

日時 11月21日(木) 14時から

定例の水曜日ではなくて木曜日ですので  
お間違えのないようお願いいたします

文化欄

川柳

袴田さん無罪確定感無量

新総理意外や意外石破さん

大関と賜杯ガツチリ大の里

大阪市旭区 近藤正

脈々とカジノのために血税を

靖国に詣らぬ言辞

何処へやら

七転び平和憲法人起せよ

大阪市中央区 大杉晃

楽しい舞台ではない  
でも今見てほしい

※

7頁にて紹介しました

金子順子さんの一人芝居

※

『マリヤの賛歌』

―石の叫び―

○12月7日(土) 14時開演

○和歌の浦アート・キューブにて

○入場料 一般 3000円

大阪AALA  
へのお誘い

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円

\*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。

\*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします



Osaka

発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

